

## 2学期の漢字

たしかめ

20

100	99	98	97	96
祭	員	係	負	両
お祭りの夜、花火が上がる。	「全員集合」の合図の笛が鳴る。	その仕事、ぼくらの係も関係するね。	今日の勝負は負けた。	道路の両側に歩道がある。

たしかめ

21

105	104	103	102	101
港	油	柱	板	業
神戸港は、外国船が着く港だ。	ガソリンは石油から作った油です。	円柱の形をしている電信柱。	黒板は、昔は黒い板だった。	授業で漢字の意味を習う。

たしかめ

22

110	109	108	107	106
悪	注	者	笛	薬
悪口を言われて気分は最悪だ。	熱湯を注ぐ時には、やけどに注意。	負けた者は敗者。	笛が鳴ったら集まりました。	薬局で風邪の薬を買った。

たしかめ

23

115	114	113	112	111
勉	放	波	庫	勝
新しい勉強机を買ってもらった。	お昼の放送を聞く。	水面にさざ波が立つ。	学級文庫の本を読む。	この勝負、どっちが勝つのか負けるのか。

たしかめ

20

100	99	98	97	96
おまつりの よる、はなびが あがる。	「ぜんいん しゅうごう」の あいずの 笛 <small>ふえ</small> が なる。	そのしごと、 ぼくらの かかりも 関 <small>かん</small> けいするね。	きょうの 勝 <small>かつ</small> ぶは まけた。	どうろの りよう側 <small>がわ</small> に ほどうが ある。

たしかめ

21

105	104	103	102	101
神 <small>こう</small> べこうは、 がいこくせんが つく みなとだ。	ガソリンは せきゆから つくった あぶらです。	えんちゅうの かたちを している でん信 <small>しん</small> ばしら。	こくばんは、 むかしは くろい いた だった。	授 <small>じゅ</small> ぎようで かんじの いみを ならう。

たしかめ

22

110	109	108	107	106
わるくちを いわれて きぶんは 最 <small>さい</small> あくだ。	熱湯 <small>ねっとう</small> を そそぐ ときには、 やけどに ちゅうい。	まけた ものは 敗 <small>は</small> しゃ。	ふえが なったら あつまりましよう。	やつきよくで 風邪 <small>かぜ</small> の くすりを かった。

たしかめ

23

115	114	113	112	111
あたらしい べんきよう机 <small>つくえ</small> を かって もらった。	おひるの ほうそうを きく。	すいめん にさざな みがたつ。	がっ級 <small>きゅう</small> ぶん このほん をよむ。	このし ょうぶ、 どっち がかつ のか まける のか。

120	119	118	117	116
血	列	真	写	想
転んで血管が切れ、足から血が出た。	行列ができる、人気のラーメン店。	真実とっていたら真つ赤な嘘。	スマホで写した花の写真。	読書感想文を書く。

125	124	123	122	121
軽	寒	暑	橋	暗
母は軽自動車に乗っている。	ああ寒い。強い寒波がやってきた。	暑い夏、暑中お見舞い申し上げます。	道路にかかる横断用の橋が歩道橋。	真つ暗闇の暗夜です。

130	129	128	127	126
州	主	返	第	命
本州と九州をつなぐ関門トンネル。	食事の時、主に食べるものが主食だ。	返金は、借りたお金を返すこと。	何をするにも安全第一だ。	命がけて使命を果たす。

135	134	133	132	131
役	守	荷	根	屋
この本は勉強の役に立つ。	決まりは必ず守ること。	入荷した荷物を倉庫に運び込む。	大きくて太い根だから大根だ。	屋上から向こうの家の屋根が見える。

たしかめ

24

1 2 0	1 1 9	1 1 8	1 1 7	1 1 6
転 <small>ころ</small> んで け <small>かん</small> つ管が きれ、あしから ちが でた。	ぎょうれつが できる、にんきの ラーメンてん。	しん実 <small>じつ</small> と おもっていたら ま <small>うそ</small> つかな 嘘。	スマホで うつした はなの しゃしん。	どくしよかんそうぶんを かく。

たしかめ

25

1 2 5	1 2 4	1 2 3	1 2 2	1 2 1
ははは けいじどうしやに 乗 <small>の</small> っている。	ああさむい。つよい かんぱが やってきた。	あついなつ、しよちゆう おみ舞 <small>ま</small> い もうしあげます。	ど <small>ど</small> うろに かかる おう断 <small>だん</small> ようの はしが ほどきよう。	ま <small>やみ</small> つくら 闇の あんや です。

たしかめ

26

1 3 0	1 2 9	1 2 8	1 2 7	1 2 6
関 <small>かん</small> もん トンネル。	しよくじの とき、おもに たべる ものが しゅしよくだ。	へんきんは、借 <small>か</small> りた おかねを かえすこと。	なにを するにも あんぜん だいいちだ。	いのちがけで しめいを 果 <small>は</small> たす。

たしかめ

27

1 3 5	1 3 4	1 3 3	1 3 2	1 3 1
この ほんは べんきようの やくに たつ。	きまりは 必 <small>かならず</small> ず まもること。	にゆうかした にもつを 倉 <small>そう</small> こには こび込 <small>こ</small> 込む。	おおきくて ふとい ね だから だいこんだ。	おくじようから むこうの いえの やねが みえる。

140	139	138	137	136
期	取	消	育	豆
二学期は一番長い学期です。	メモを取りながら取材する。	火を消す車が消防車。	体育は、体を育てる時間だ。	お豆腐は、豆からできている。

145	144	143	142	141
起	急	福	終	畑
さあ起きろ。起床の時間だ。	空が暗くなり、急に風が強くなった。	福は内鬼は外。	終了の笛が鳴ったよ、もう終わり。	大豆は畑の肉ともいわれる。

150	149	148	147	146
歯	鼻	談	待	苦
永久歯が虫歯になる。	鼻水が止まらず、耳鼻科へ行った。	相談室で先生と面談する母。	駅で友達と待ち合わせる。	苦い薬を苦勞して飲む。ああ苦しい。

155	154	153	152	151
昭	級	委	階	央
おじいさんは昭和生まれだ。	四年生に進級する。	図書委員の仕事は本の整理だ。	階段を上って二階の教室へ行く。	運動場の中央に集まる。

たしかめ

28

1 4 0	1 3 9	1 3 8	1 3 7	1 3 6
にがつきはいちばんながいがつきです。	メモをとりながらしゅ材する。	ひをけすくるまがしょう防しゃ。	たいいくは、からだをそだてるじかんだ。	おとう腐は、まめからできている。

たしかめ

29

1 4 5	1 4 4	1 4 3	1 4 2	1 4 1
さあおきろ。き床のじかんだ。	そらがくらくなり、きゆうにかぜがつよくなった。	ふくはうち鬼はそと。	しゅう了のふえがなったよ、もうおわり。	だいずははたけのにくともいわれる。

たしかめ

30

1 5 0	1 4 9	1 4 8	1 4 7	1 4 6
永久しがむしばになる。	はなみずがとまらず、じびかへいった。	そうだんしつでせんせいとめんだんするはは。	駅でとも達とまちあわせる。	にがいくすりをく勞して飲む。ああくるしい。

たしかめ

31

1 5 5	1 5 4	1 5 3	1 5 2	1 5 1
おじいさんはしょう和うまれだ。	よねんせいにしんきゆうする。	としよいいのしごとはほんのせいりだ。	かい段をのぼってにかいのきようしつへいく。	うんどうじょうのちゅうおうにあつまる。

160	159	158	157	156
短	皿	皮	駅	和
気が短くすぐ怒り出す短気な人。	夕食の用意だ。お皿を並べてね。	毛皮のコートを着た女の人。	駅前の広場で待ち合わせる。	美しく平和な日本。心も和む。

165	164	163	162	161
医	病	転	美	息
医学の進歩で良い薬ができた。	病は気から。元気で病気知らずだ。	三回転ジャンプの後、見事に着地。	美しい声を美声という。	息苦しくて窒息しそうな満員電車。

170	169	168	167	166
幸	度	配	重	飲
幸運が続いて幸せだ。	温度計は、温度を調べる道具です。	新聞を配って回る新聞配達。	重い岩、三つ重ねて重量一トン。	暑い時には麦茶を飲もう。

172	171
族	流
水族館でいろんな魚を見た。	台風で流木が流れ着いた。

# たしかめ

32

美しくへい<sup>うつく</sup>わなにほん。こころもなごむ。

えきまえのひろばでまちあわせる。

けがわのコートをきたおんなのひと。

ゆうしよくのよういだ。おさらを並<sup>なら</sup>べてね。

きがみじかくすぐ怒<sup>おこ</sup>りだすたんきなひと。

# たしかめ

33

いきぐるしくて窒<sup>ちっ</sup>そくしそうな満<sup>まん</sup>いでんしや。

うつくしいこえをびせいという。

さんかいてんジャンプのあと、みごとにちやくち。

やまいはきから。げんきでびようきしらずだ。

いがくのしんぽで良<sup>よ</sup>いくすりができた。

# たしかめ

34

あついときにはむぎちやをのもう。

おもいいわ、みつつかさねてじゅう量<sup>りょう</sup>いっトン。

しんぶんをくばってまわるしんぶんはい達<sup>たち</sup>。

おんどけいは、おんどをしらべるどうぐです。

こううんが続<sup>つ</sup>いてしあわせだ。

# たしかめ

35

たいふうでりゅうぼくがながれついた。

すいぞくかんでいろんなさかなをみた。